

実践！会社を良くする社長学 - 4万7000社が集結「中小企業家同友会」パワーの源泉

プレジデントが1年間「中小企業家同友会」を連載 (第4回)

このたび、ビジネス誌「プレジデント」(32万部発行、月2回刊)に、2018年4月23日発行号から1年間にわたり同友会の活動とそこで企業変革を行った会員企業が、『実践！会社を良くする社長学』- 4万7000社が集結『中小企業家同友会』パワーの源泉』として紹介されることとなりました。執筆は清丸恵三郎・プレジデント元編集長。(本サマリーは「プレジデント」編集部了解の下、作成されています)

第4回 なぜ「経営指針づくり」が経営者を育てるのか 2018.06.11号(7月2日発行号)



「中小企業家同友会の最大の特徴は経営指針を確立する運動だ。「経営指針成文化セミナー」では経営理念に始まり、10年ビジョン、経営方針、経営計画を策定する。同友会の経営指針づくりが目指すものとは何か。経営者はこのセミナーで何を学ぶのか、レポートする」とリード。

以下は一部抜粋して要約。*詳細は本誌をお読みください。

セミナーに参加し、修了証を得ることは、真面目に勉強し、活発に議論を戦わす中小企業家の集団、中小企業家同友会の真のメンバーとなるための、実に厳しい第一関門だと言っている。

同友会運動の活性化のベースにあるのは「経営指針成文化」活動であり、そこでまず挙げられるべきは「経営理念」の作成であることは間違いあるまい。

もっともこの点に関して、変化の激しい現在、今さら「経営理念」などといったお題目を唱えてみても始まるまいという声が、若い経営者の間から聞こえてきそうである。実は同友会に入会してくる人たちの間にも、そうした声は多くはないと聞く。経営は技術と捉えるMBA出身者などには、ことにそうした傾向が見られるようだ。

しかし、2001年に起きた世界的なエネルギー会社エンロンの経営破綻を機に、お膝もとのアメリカの有力MBAではコーポレートガバナンスとともに、経営者の倫理性を講座に組み込む傾向が強まってきた。別の言い方をすると、資本主義経済、自由主義経済の本場であるアメリカでも、あらためて経営者の倫理性とその規範となる経営理念が重視されるようになってきているのだと言って間違いはない。露見さえしなければ、利益を上げるために企業は何をやってもいいという時代は終わりを迎えているのだ。

(経営指針成文化セミナーは) いずれの同友会の場合でもそうだが、事前に読むべきテキストが決められていて予習が必須であるうえ、毎回の講座終了時に出される宿題は期限内に提出厳守である。遅刻、欠席、早退は認められず、1回でも禁を破ると修了できないことになっている同友会もある。実に厳しいと言っている。このほか受講者は経営者か、後継者で、かつある期間内に事業を承継することが決まっていることとされる。宮城県のように直近3カ年の決算報告書の提出義務を課すとともに、所属支部の支部長の承認を求める同友会もある。これだけを見ても真面目に、かつ誠実に取り組むこと、会社も自分自身も裸になって立ち向かうこと、さらにそうした資質を有する経営者であることが要求されているとわかる。

96年に同友会に参加した笹原繁司氏(千葉同友会代表理事)は、いろいろな経歴の人が交じっていて、無断で休んだり、遅刻してきたりする警備員たちを、同友会で学ばせたの委員会活動により会社の求める人材に育てようとする取り組みが、全くうまくいかなかった。そこで悩んだ笹原氏は、千葉同友会の経営指針成文化セミナーに参加する。以下、笹原氏の言葉を一部補いつつ記す。

「まず、『何のために経営していますか』と聞かれ、(お金でしょう、食うためでしょう)と思い、次に『どんな会社になりたいですか』と聞かれ、(俺がどうしようと大きなお世話だろう)、変なことを聞くセミナーだなと思いました。『あなたにとって社員とは何ですか』社員? 給料払っているんだから仕事するのは当たり前だろ! そう思っていました、何のための会社、誰のための会社……と自分なりに考えてみました。『俺の会社』、そう思っていた自分に気付いたような気がします。(社員が自分の考えるように働いてくれないのは)自分に(原因が)あるなんて考えたこともありませんでした」

とにかく経営指針成文化セミナーでは、出席者一人ひとりの、経営力だけでなく、経営者としての人間性までも、自らが考え込み、考え直さざるをえないように、追い立てられていくのである。経営者としての生き方や経営姿勢が問われているのだ。そこに至って初めて、これまで何度も触れてきた同友会の諸原則、諸原理が、自らが発見する形で、「救い」として立ち現れてくるのである。



第5回 経営者は飲み代は全部、自分の財布から払うべし 2018.07.16号(6月25日発行号)

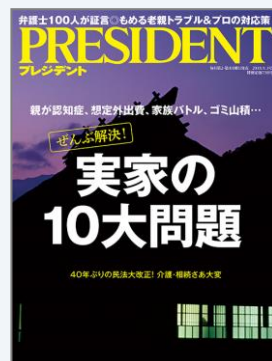
プレジデント：同友会専用購読申込ページ <https://presidentstore.jp/ext/doyu.html>

年間購読料1万円(40%オフ)、選べる書籍贈呈など各種特典が受けられます。

同友会連載記念『PRESIDENT』優待年間購読のご案内

大好評連載中！ 実践！会社を良くする社長学 4万7000社が集結「中小企業家同友会」パワーの源泉

理想の経営者になることを目指して、とことん学びあう経営者たちの集まりがある——。会員数 4 万 7000 社を超える中小企業家同友会は会員企業が増え続けている。なぜ、この企業家集団は経営者を引きつけ続けるのか、ジャーナリストの清丸恵三郎氏がレポートする。
8/10 発売（9.3 号）連載第 8 回⇒



特典 1 優待年間購読料 ~~16,560 円~~

10,000 円

(消費税・送料込み)

定価 1 冊 690～750 円のところ、**1 冊わずか 4 1 7 円！**

特典 2 2つの会員クラブへの登録が無料で行えます

- 「ふろむな倶楽部 and」 「お金」「健康」「仕事」の専門家が、あなたのご相談に親身にお応えします
 - 「Club off -クラブオフ-」 様々なリゾート・レジャー・スポーツ施設を、割引価格でご利用いただけます
- 詳しくはこちら <http://www.club-off.com/president/>

特典 3 書籍贈呈 下記よりお好きな 1 冊をお選びの上、申込書の番号に○をつけてください。



- No361『考える力がつく本』 池上 彰 著
- No368『業界地図2018』 ビジネスリサーチ・ジャパン 著
- No370『日本の論点2018-19』 大前 研一 著
- No371『出光佐三』 プレジデント書籍編集部 編
- No373『動機づけのマネジメント』 横田雅俊 著
- No374『ドン』 飯島 勲 著

プレジデント社法人営業部「同友会」担当 行

申込 FAX:0120-298-556 こちらからもお申込みいただけます⇒

【お問合せ】 TEL : 03-3237-3731 プレジデント社・安達



支部

TEL :

お申込者	フリガナ			商品名
	氏名			PRESIDENT 10,000 円
ご住所 (お届け先)	〒	□□□□ - □□□□	(自宅宛・勤務先宛)←○をつけて下さい ※勤務先の場合、社名・部署名をご記入下さい	新規・継続
	TEL			
会員企業		E-mail		
【特典 2】	会員クラブの無料登録 (する・しない)		【特典 3】	特典書籍の選択 (361・368・370・371・373・374)

優待年間購読 お申込概要

年間発行回数	毎月 2 冊 (第 2・第 4 月曜日発売) 計 24 冊。
購読期間	お申込み後に発売の最新号より 1 年間、ご指定地にお届けいたします。 ※年間購読期間中は、無料のデジタル版にて連載初回からお読みいただけます。 利用方法はこちらをご参照ください⇒ https://presidentstore.jp/ext/hpc-index2.html
申込方法	上記申込書を FAX (0120-298-556) していただくか、専用 URL にてお申込みください。 同友会会員様専用サイト https://presidentstore.jp/ext/doyu.html
支払方法	雑誌とは別便でお送りする振込用紙 (手数料不要) にてお支払ください。 ※会員様専用サイトでのお申込みに限り、クレジットカードもご利用いただけます。

※自動継続にはなりません。継続希望の方も特典書籍が贈られますので、継続欄に○印をご記入の上お申込みください。